

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：14301
 研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2011～2014
 課題番号：23320031
 研究課題名(和文) 西洋美術における「目」と「眼差し」の総合的研究

研究課題名(英文) Eyes and Gaze in the Occidental Art

研究代表者

岡田 温司 (OKADA, ATSUSHI)

京都大学・人間・環境学研究科(研究院)・教授

研究者番号：50177044

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 16,100,000円

研究成果の概要(和文)：本年度は分担者による研究報告会(名古屋大学文学部2014年12月21日)を開き、岡田(眼差しの観点から見た映画論と絵画論の比較検討)、金井直(カノヴァの彫刻受容・批評における写真の役割)、石田美紀(高倉健とカメラの眼差し)がそれぞれ発表を行ない、議論を重ねた。2015年3月2日と3日は、ローマ大学トル・ヴェルガータとの共同開催で『哲学と芸術における目と眼差し』という国際シンポジウムを開催し、海外研究協力者のローマ大教授ジュゼッペ・パテッラ(ラカンにおける目と眼差し)、パオロ・ダンジェロ(ヘーゲル美学における彫刻の眼差し)をはじめ、京都大学の若手研究者8名がそれぞれ意欲的な発表を行った。

研究成果の概要(英文)：In this year we had a occasion at the Nagoya University where three members of research, Okada (The relationship between theory of picture and the theory of cinema from the point of gaze), Kanai (The role of photograph in the critics and reception of Canova), and Isida (Ken Takakura and the gaze of camera) gave presentations about the subjects of our research. In addition at University of Rome Tor Vergata with the collaboration of this University we holded the international syposium on "Eye and Gaze in Philosophy and Art", in which the Prof. Giuseppe Patella, the Prof. Paolo d'Angelo, the Prof. Roberto Terrosi and the young recerchers of Kyoto University participated and gave the reports on the subjects.

研究分野：美術史

キーワード：目と眼差し 芸術作品 展示 解釈 美的距離 視覚と触覚 感性論 インタラクティブ

1. 研究開始当初の背景

研究代表者である岡田は、これまで基盤研究(B)「肖像」をめぐる領域断的研究(2007~2010年)において、美術史、美学・芸術学、歴史人類学等の複数の領域を横断する研究を組織してきた。そこからある意味で必然的に浮上してきたのが、今回の「目」と「眼差し」をめぐるさまざまな問題系であり、それはもはや「肖像」という特定のジャンルに納まりきるものではなく、広く歴史的かつ理論的に研究される必要があるという認識である。本研究を着想するにいたった最も大きな理由はそこにある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、主として西洋美術を「目」と「眼差し」という観点から総合的・領域横断的に捉えなおそうとするものである。ここで問題となるのは、美術作品それ自体の内部における「目」や「眼差し」の意味ないし機能ばかりではない。観者との関係性、見るという行為、様々な視覚的・光学的装置、受容形態等の問題もまた、重要なテーマとなる。ここで「目」と「眼差し」をあえて区別するのは、それゆえ理由のないことではない。「目」はモチーフとしてそれ自体で成立しうるが、「眼差し」は必ず二つ以上が想定されている。本研究は、美術作品の内と外、つまり作品と、作品を中心にしてそれを同心円状に取り巻いている多層的な文脈(批評言説、美術史学、展示空間、文化的・社会的状況等)との多様な関係のあり方に注目し、「目」と「眼差し」の果たす役割を歴史的かつ理論的に解明することを目指すものである。

3. 研究の方法

本研究の方法は大きく以下の5つの要素から構成される。

各分担者による作品調査と文献収集、および作品の個別研究と解釈。これには海外調査(イタリア、フランス、ドイツ等)も含まれる。「目」と「眼差し」をめぐる美学・

芸術学の思想、美術史の方法論、批評、科学的言説の包括的かつ批判的な洗い直しと再解釈。

の研究成果の発表。一年に3・4回程度、分担者全員が集まって報告を行なう。以外にも、他の分野の研究者を招いて、発表や議論を行なう。具体的には、日本・東洋美術との比較、文学作品における「目」や「眼差し」、精神分析、脳科学などの研究者との知識や意見の交換等である。海外の共同研究者を招いて、公開シンポジウムを企画・開催する。

4. 研究成果

本年度は分担者による研究報告会(名古屋大学文学部2014年12月21日)を開き、海外調査や国内調査等を踏まえて、岡田(「眼差しの観点から見た映画論と絵画論の比較検討」、金井直(「カノーヴァの彫刻受容・批評における写真の役割」)、石田美紀(「高倉健とカメラの眼差し」)がそれぞれ発表をおこない、議論を重ねた。この報告会では主に、メディアを超えた絵画と写真と映画のあいだのイメージの移動と、それにとまなう鑑賞者の眼差しの変容という間メディア論的な問題点が新たに浮上してきた。

2015年3月2日と3日は、イタリアのローマ大学トル・ヴェルガータとの共同開催で『哲学と芸術における目と眼差し』という国際シンポジウムを開催し、ローマ大学の研究者を中心にイタリア側から5名、京都大学を中心に日本側から8名が参加して、美術史のみならず、神話学、宗教学、人類学、精神分析学等をも視野に入れながら、目と眼差しをめぐる問題について、研究発表と議論がおこなわれた。その主たる概要は以下の通りである。

岡田は、まさしく眼差しに捧げられたマイケル・パウエルのカルト的映画『血を吸うカメラ(Peeping Tom)』に焦点を当てることで、眼差しが絵画と映画とを切り結ぶ接合点に

なっていることを明らかにした。一方、ローマ大学のジュゼッペ・パテッラとロベルト・テッロースは、ラカンや視覚文化研究等に言及しながら、眼差しの脱主体化を改めて提起した。ヘーゲル美学の専門家であるパオロ・ダンジェロは、古典的彫刻に眼差しはないというヘーゲルのテーゼを批判的に再考した。キリスト教思想史の研究者であるジョヴァンニ・サルメリは、イコノクラスムをめぐる名高い問いを再び取り上げ、ここ数十年の専門的研究の知見を踏まえて、イメージをめぐる当時の論争に新たな光を投げかけた。これらのほかにも、ギリシアのプロソボン、ジョルジョ・ヴァザーリ、ナポリのバロック絵画、アルテ・ポーヴェラ、多木浩二、ルイジ・パレイゾン、ジャック・デリダ等についての発表がおこなわれ、最終年度を締めくくるにふさわしい内容となった。本シンポジウムの記録は、ローマ大学トル・ヴェルガータの出版局より今秋に出版の予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

岡田温司「ウト・ピクトゥーラ・キネーシス」
『ディアファネース』2(2015)24-48

前川修「リングのふたつの意味：『リング』のイコノロジーとイコノミー」『美学芸術学論集』11(2015)6-20

Akiba Fuminori, When a body meets a body, *International Journal of Education and the Arts*, 15(2014), 1-48.

阿部成樹「変容の地平：アンリ・フォションの思索から」『国際シンポジウム「時の作用」報告書』2014 67-75

石田美紀「高倉健を分有する」『ユリイカ』47-2(2015)169-177

松原知生「数寄物・杉本のアナクロニズム」『美術手帳』66-1006(2014)72-78

[学会発表](計2件)

Okada Atsushi, Ut Pictura Kinesis: Teoria della pittura e teoria del cinema, International Symposium Eyes and Gaze in Philosophy and Arts, University of Rome Tor Vergata 03/3/2015

木俣元一「聖なるものへの再出発」日仏美術学会 京都大学 2014年6月14日

[図書](計4件)

岡田温司『黙示録』岩波書店 2014年 266頁

岡田温司『イタリアン・セオリー』中央公論新社 2014年 269頁

岡田温司『イメージの根源へ』人文書院 2014年 287頁

喜多村明里『変身の形態学』ありな書房 2014 7-82頁 291-300頁

[産業財産権]
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 岡田温司
(京都大学大学院人間・環境学研究科・教授)
研究者番号：50177044

(2)研究分担者 木俣元一
(名古屋大学文学研究科・教授)
研究者番号：00195348

前川修(神戸大学大学院人文学研究科・准教授) 20300254

秋庭史典(名古屋大学情報文化学部・准教授) 80252401

金井直(信州大学人文学部・准教授)10456494

阿部成樹(中央大学文学部・教授)90270800

喜多村明里(兵庫教育大学・教授)90294264

松原知生(西南学院大学・准教授)20412546

石田美紀(新潟大学人文学部・准教授) 70425007

(3)連携研究者

()

研究者番号: